

# 11月の生活表

2018年 11月

聖マリア幼稚園

月主題：遊び込む

・保育日数 (21日)

月目標：・ 豊かな秋の実りを喜び、神様に感謝する。

- ・ 自然物に触れる中で、五感を通して秋から冬への季節を感じる。
- ・ 友だちとアイデアを出し合ったり、相談したり、イメージを吸収しながら遊び込むようになる。
- ・ いろいろな人の働きに関心を持ち、身近に感じる。

11月を迎える京都。東山も少しずつ色づき始めています。真っ青の空に浮かぶふわふわの雲は、その色づき始めた山に影を落とし、動いていく様は、まるで雲の傘をかぶったようですね。じっと山を見つめているとその1本1本の木々が見えてきます。台風21号の被害により、その紅葉はひと枝ひと枝が見えるほどの空間を見せている所もあるのでしょうか。折り重なる綾錦の色が淡くなっているかもしれませんが、命を流された木々により、また違った光景でその季節を味わえる事も大切にしたいと思います。

さて子ども達は、毎朝のように様々な宝物を手にしてやってきます。次の命の種を携えて、また次の新芽の為に、風に吹かれて散り落ちた葉っぱを手に。葉っぱのフレディーを思い出します。命の循環です。人間においても、自分は誰の命から生まれ変わって今ここにいるんだろうかと。時には「この人・・・おばあさんの若い時によく似てはるねえ。」なんて言われると、そのご先祖さんのお写真を見たくもなるわけですね。子ども達が私たちの目の前にいること、お父さんお母さんがいらっしゃる事、おじいさんおばあさんの存在があつてここに居ること etc. 神様からいただいた命あるものすべては、命のバトンタッチをしてもらい、また次の人にタッチして渡していく命のリレーなのです。ですが、ただただその命を繋いでいいたら良いのかということでは無く、始めの命があつて、その道程で様々な方との関わりがあり、様々な人から影響を受け、自分にとってそれが良いことに働いているのか、いや、そうではないのか。様々な場合がありますね。その折々に自分にとって何が良いことであり、いやなことであるのかの判断が必要になってきます。決断といつても良いのかもしれません。この決断は大人の自分自身として考えるのか、私たちの大切な子ども達の為に考えることなのか、その時その時が重要な判断となります。大人自身の判断は自分の責任。ですが、子ども達が目の前にある時、私たちは、そのお子さんが素直な心、優しい心、思いやる心、親切な心、愛がいっぱい詰まった心 etc. にたくさん触れることで、愛を持った心の成長へと導かれるようにしなければなりません。大切なことです。優しく、穏やかに育つ・・・日々の所作、声かけは大人の責任ですね。私たちは子ども達との出会いと成長に感謝しながら、また、各々の歩む道に少しでも添えるように、しっかりチーム保育と称する体制で教育をさせていただければと考えています。この11月に迎える「感謝祭」の意味をしっかり捉え、保護者の方々と手を携えて責任が果たせますように。

## 《 チャプレンコーナー 》 10月

月聖句：わたしはまことのぶどうの木 （ヨハネによる福音書 15：1）

「ぶどう」は、教会の中でよく用いられるモチーフです。ぶどうのデザインの刺繍や彫刻を、よく見ます。ぶどうは気候の厳しいユダヤの国でも栽培できて、食用に、またぶどう酒に用いられました。

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」とイエス様が言われるとき、それは「つながり」を意味します。根、幹、枝とつながってぶどうが実るように、私たちもつながりの中で生きること、豊かに生きてゆくことができるのです。

ここで言われる「つながり」は、2つあります。一つは、人と人とのつながり、もうひとつは、人と神様とのつながりです。人間は一人では生きていけません。

互いに助け合って支えあって生きています。人と人とのつながりは、私たちが生きるのに必要なものです。けれどもそれだけに埋没してしまえば、その交わりは、単に「仲良し」になってしまいます。自分たちの利益だけを求めるものになってしまい、リーダーシップは「人気取り」に堕してしまいます。私たちは同時に、神様とのつながりが必要です。神様とのつながりによって、私たちは、正義や愛などの、より高い倫理観、道徳観を得ることができます。仲間のつながりは、正義や愛によって整えられてゆくのです。

十字架は、縦の線と横の線によって作られています。これを象徴的に解釈するなら、縦が神様とのつながり、横が人とのつながりと言えるでしょう。この二つのつながりが交わる場所に、神様の平和があるのです。

それぞれのつながりを、より豊かにしていきたいと思います。

## おたんじょうび おめでとうございます

5日：しんかわ まいせんせい

14日：ふじた ひさこせんせい

### <生活指導>

☆ 身近な秋の自然に触れてみましょう。

- ・ 落ち葉拾い、木の実拾いから季節の移り変わりに関心を持たせましょう。
- ・ 巡る季節の営みに気づき、また家族で話し合っ神様の業を賛美しましょう。

☆ 私たちの為に働いて下さっている人々に感謝しましょう。

- ・ 様々な職業に関心が持てるように、折に触れて家族で話し合い、そのお陰で社会が成り立っている事に気づくような機会を得てみましょう。
- ・ 身近な人、特に父母の仕事を知り、そのお陰で毎日の営みが成されている事に触れ、感謝の気持ちが持てるように話し合ってみましょう。

☆ 命の大切さ、繋がりを考え感謝しましょう。

- ・ ご先祖様からの命の繋がりを得て、私達が今在る事を再確認し感謝しましょう。
- ・ 幼稚園で祖父母をご招待する機会がしっかり生かされるように、なかなか会えない孫と祖父母とが共に楽しい時間を過ごせるよう、また感謝の時間となるように、子ども達を交えて何か良き計画を立ててみましょう。
- ・ 子ども達の誕生から今迄の成長に感謝し、更にこれからのお導きに祈りを捧げましょう。

☆ 体調を整えましょう。

- ・ 昼夜の気温の差に対応できるよう、こまめに衣服の調整を致しましょう。  
(ことばをかけながら、本人にも気づかせましょう。)
- ・ 保護者は上着を持ち帰らず子どもにお預け下さい。  
(自分の物である認識=大切にす たたむ事で整理整頓のよい癖を)
- ・ 風邪(咳・鼻水・腹痛等)の予防には、帰宅後の手洗いとうがいが大切です。  
ご家族みんなで、毎日実行してみましょう。
- ・ バランス良い食事・十分な睡眠・朝食の摂取に心がけ抵抗力を養いましょう。

☆ 静かな秋の夜長のひととき、落ち着いてお話や絵本に親しめるように心がけましょう。

- ・ 子どもが自分で読めても、大人が読んであげることの大切さを知り、時間と場を共有して楽しみましょう。(小学校低学年迄は読んであげましょう。)
- ・ 大人は、子どものそばで場を共有することにより、成長発達している子ども達を肌で感じとり、その大切な宝物を下さった神様に感謝しましょう。
- ・ 子供が何かを喋りたそうにしている時には、じっくり耳を傾けてあげて下さい。しかし、子供の話聴くことのみではなく、我慢して待たせることも必要ですね。そして、聞く

ことと言いなりになることは別問題です。また、良し悪しのけじめがつくように、褒めることと叱るときの内容をしっかりと捉えてみましょう。(簡潔な叱り方を！)

## <こひつじの会よりひとこと>

「靈性を育てる聖マリア幼稚園」

自然派子育てを推進されている橋本ちあきさんに「子供の靈性を育てなさい」と言われたことがありました。その時、“靈性”という言葉にはまったくピンときておらず、ただ受け流していました。靈性とは、非常にすぐれた性質や超人的な能力をもつ不思議な性質（ウィキペディアより抜粋）。つまり、園長先生が常々言っておられる、“見えないものを感じ取り、信じる事”だと、聖マリア幼稚園にきて気が付きました。目の前に存在する事だけでなく、見えないあらゆることに生かし、生かされているのが自分という存在なのだと。

長男は5歳、次男は3歳になりました。生まれてから現在まで生きている事は奇跡なのだ、と社会のできごとを通して日々思います。しかし、私はどれだけ子供たちに目に見えない命のつながりや、先祖に感謝する思いを伝えられているのか不安になります。

そんな時、いつも頼りになるのは園長先生はじめ、幼稚園の先生たち、子供たちを見守ってくださるチャプレン先生や教会の方々です。“感謝する”という心と姿勢に常に接することができます。

11月は感謝祭。実りという目の前の事実だけではなく、そこに至るまでの環境や手をかけてくださった人々、そして、巡りあう生命を改めて感じる季節となりました。

毎日、朝早くから夜遅くまで保育をしてくださってくださり、笑顔で接してくださる先生方、教会の方々、父母の皆様に深く感謝いたします。また、子供たちにも言葉や態度で“感謝”を伝えられる良い機会にしたいと思います。

渉外：緑組（花組）佐藤 由紀

## <クラスだより>

### 花組

毎日、子どもたちが必ず通る2階の廊下。ある日の帰り『先生、あれは神様？』と尋ねる子どもの声。廊下に飾られた聖画です。幼稚園内には沢山の聖画が飾られています。その場面は普段園長先生やチャプレン先生が礼拝でお話しして下さる聖話に沿ったものも多くあります。その子の目に留まったのはマリア様がイエス様を抱っこしていらっしゃる絵でした。

ちょうどその頃園長先生はクリスマスに向かっての聖話をスタートされていました。そしてマリア様の元に天使ガブリエルが現れて、神様の御子を授かる受胎告知の場面が終わったときだったのです。礼拝堂での聖話が花組の子どもたちにどれくらい伝わっているのか、難しいとこ

ろですが、大事なのは花組さんなりに途切れ途切れでも画面を共有することだと思っています。

入園して半年が過ぎ自然と礼拝での流れを身に付け、十字架に向かって一礼し着席する。オルガンの奏樂が鳴れば口を閉じて静かな時を過ごす。緑組のサーバー（礼拝当番）さんが献金袋もって回ってきてくれると、お家からの献金を小さなお財布から取り出しお捧げし「ありがとう」をする。神様のお話に耳を傾けながら、ある時は驚き、ある時は礼拝堂に差し込む光に心奪われる。環境の中で「美しい」と感じ「面白い」と思う、そして「なんで？」と疑問を持つ。花組の子どもたちの視点で発見すること。それがとても新鮮に感じます。季節の移り変わりと共に、子どもたちの手から届けられる自然の宝物からも「なんで」「どうして？」が生まれてきます。沢山のコスモスや野菊（名前を覚えるのも大事ですね。「あれ」でもなく「これ」でもない、呼称を知ることコミュニケーションも取りやすくなります）を花瓶に挿し、どんぐりとハナミズキの実をガラスコップに入れ、それらを届けてくれた子ども達の手で披露してもらいました。花は柔らかく、手で持つ時には「そっと」。ガラスは落とすと割れてしまうから両手を「添えて」。物の扱いも、実際に触れる中で意識されることもあるものです。そうして、子どもの手に触れ目で見た植物も「命」あるもの。やがて朽ちて枯れてしまいます。花瓶に挿されたコスモスはすっかり萎れてしまいました。そんな変化に子どもたちも気がつきました。ならばと、枯れていく花をそのまま残しておくことにしました。そこに「命」があることも知らせたいと思ったからです。「なんか、お花がない」「色もちがう」「茶色くなった」「水を入れ替えたら、元気になるかも」と子どもたち。なので「実験！実験！」と水を入れ変えて様子を見ることにしました。でも…お花は蘇りません。

引っ掻いた傷は手当てをすれば、とれたボタンは縫い付ければ…なんとか元に戻ります。でも、命あるものには戻らないことに目を向けておきたいと思っています。それは人はもちろんのこと、「モノ」を大事にすることに繋がります。おもちゃの片付けを見ていると投げ入れてしまうこともあります。足で踏んづけてしまうこともあります。それが当たり前にならないこと、ふと目を止めて気に掛けて、人を「モノ」を労り思いやることを心に留めておきたいと思います。それも「感謝」なのではないでしょうか？

冒頭の「これ神様？」の質問に、「献金礼拝のお話を聴いていてごらん。その答えを園長先生が話してくれはるから」と答えたら、「なんで、園長先生が知ってはるん？」「園長先生はなんでも知ってはるねんなあ」と絵を眺める子ども達。少しずつ自分たちの周りで起きていることが見えてきました。視野が広がってきたということでしょうか？それはつまり、進級をも意識して「大きく」なることにやがて繋がっていくのでしょうか。そうそう！花組さんに新たに小花ちゃんをお迎えますよ～～！！なんと賑やかなことでしょうか。賑やかに「ようこそいらっしゃい」「どうぞよろしくね！」

## 赤組

♪あるいていたら あーるいていたら あるいていたら あれ？どんぐりたくさんおちていたー♪ お歌のように登園時、また降園後にいろんな秋を見つけてくる子ども達。みんなが探してきたどんぐりを手に、絵本を見ながら「このどんぐりかな？」「こっちに似てる」とお友達と一緒に探している子がいました。またどんぐりを器用に回したり、上から落としてみてどんぐりがおちる音、転がる音を楽しんでいました。ちょうど赤組さんの「木の実」のお歌にあるように。「ぼこりんって聞こえるかな？」「いや、ころんって聞こえる」なんて言いながら。

こうしてお友達と一緒にいろんなことを考えて、いろんなことを試している子ども達。最近、朝や昼食後の自由遊びの時に、家族ごっこをしたり、お友達と協力してブロックで大きなひとつのものを創り上げる姿が多く見られるようになってきました。「ぼくこのブロック集めてくるわ」「ok！そしたら組み立てていくわ」と自分達で役割を決めながら楽しそうに遊んでいます。お友達と一緒に遊ぶということは、それぞれの気持ち、思い描くイメージなどをお友達に伝えていかなければなりません。時にぶつかり合うこともあります。しかしそれは当たり前。だってみんなそれぞれに気持ちがあるのだから。大好きなお友達がいくらこうしようと言っても、「僕、私はこう思う」そんな自分の気持ちを大切にしてほしいと思います。そしてその気持ちをお友達に伝えてほしいと思います。ぶつかり合った時、少し立ち止まって自分で考えるようになってきました。どうしても時にはもちろん先生がお助けしますが、まずは自分で、自分の気持ちを知り、どうやったら伝わる？と考える、この姿勢を大切にしたいと、そばで見守っています。

そんな赤組さん、みんなで力を合わせて感謝祭に向けて始動しています。今回の劇ごっこは緑組さんと一緒に「ヘンゼルとグレーテル」をします。お役を決めて早速練習開始です。工作大好き！な赤組さんと、また緑組さんと一緒に意見を出し合いながら、お菓子の家やそのほかの大道具小道具作りもしていきたいと思います。そしてリズムバンドでは、赤組さんも楽器を並べご準備をします。夏のお楽しみ会から、さらに任されるお役も増えていきます。お手伝い好き、頼られると張り切っちゃう赤組さん。緑組さんに教えてもらいながら、自分のお役をしっかりと担ってほしいと思います。

練習と同時に、感謝祭に向けて「感謝って？」「何にありがとう？」を子ども達と一緒に考えています。日ごろ何気なく生活していると気づかない、見落としてしまっている「ありがとう」。当たり前のようで当たり前でない、私たちがこうして生きているのはいろんな命、そしていろんな人に支えられているからだということに目を向けたいと思います。そしてそのことに気付けたなら、大人も子どもも素直に「ありがとう」と言える心でいたいと思います。

## 緑組

車で毎日加茂街道を走っていると、四季の移り変わりを感じます。北に上がるほど街路樹の紅葉が進んで葉が色づいていくの見るのは本当に癒されます。お庭で遊んでいる子が、「せんせー みてーきれいー」と桜の葉を見て駆けつけて来ました。グランデーションも美しく しばし二人でうっとり見つめました。これからしばらく子どもたちと「小さい秋」探しを楽しみたいと思います。

先日 某ハンバーガー店で、入院病児を抱えた家族の介添え施設への寄付になるので、セットを購入しました。ほんの少し自分の幸せを分ける。自分も幸せな気持ちになれる。素敵なことですね。けれどもそこでふと、ホスピタリティやボランティア精神って何だろうと思いました。やってあげたと思うのは、自己満足に過ぎないのでは？ でもきっかけは“やってあげる”という気持ち、感謝されて嬉しい！と思う気持ちだと思います。感謝祭を前に、感謝する（ありがとう）の気持ちで一杯にしたいと思います。

赤組さんが4歳児の園児大会に出かけた日のこと、お昼の12時半を過ぎてもまだ戻ってこない赤組さん。暗いお部屋を横目に、緑組は昼食準備を進めていました。するとSちゃんがそっと耳打ちしてきました。「思い出した！先生去年の緑組さん、私たちが帰ってきたら、すぐにご飯が食べられるように、机まで拭いておいて用意しておいてくれたはった！」（私たちもそうしょうよ）Sちゃんの目がキラキラしています。「それはいいことね、そうしょうね」でもSちゃんひとりでは準備しきれないので、あと2人ほどのお手伝いをお願いしました。戻ってきた赤組さんのお昼準備がスムーズに進んでいるのをそっと覗いて確かめると、とてもうれしそうにしているSちゃん。他の2人はストレートに「私たちが用意しておいたで！」とアピールしていました。子供たちそれぞれの形での心遣いが出来たという喜びが見えました。マリア幼稚園には、誰に言われることなく自然に人の為に親切にしてあげる優しさが、歴代の緑組さんたちから脈々と受け継がれています。自分と相手の間でホスピタリティが行きかい、それが一方通行なものではなく、それを受ける人も感謝の気持ちを持ち、それが感じられることで、ともに喜びを共有するという関係が成立しています。それが信頼関係の深まりに繋がっていくこともあるでしょう。一方的ではサービスとなってしまいます。（どんな形でもマリア幼稚園の子は喜んで、やってくれますが。）又、常にお母さま方が幼稚園に関り、行事の中で一生懸命にお働きいただいている姿も子どもたちの目にはしっかりと映っているのでしょうね。マリアの子どもたちは、特に感謝祭を通して、色々な方々に支えられて自分は生きている感謝を知ります。親、家族、地域の人々、働く人々、自分を取り巻く環境…等々 人は窮地に陥ったときにこそ普段の生活がいかに大切で感謝するべきことかを知ります。そんな時にだけ感謝するのではなく、小さなことに感謝できる心でありたいと思います。それがずっと続くように。すぐにもやってくるクリスマス、せめてそれまでの間、感謝の気持ちで心を一杯にしたいと思います。日本人は黙っていることが美德とされがちですが、口に出して言葉にしないと感謝の気持ちが伝わらないことが多々あります。その人の気持ちが無駄になってしまわぬように、気持ちをしっかりと伝えられるように、私たちがサポートしたいと思っています。